

## だるま企画 勉強会



講師：大久保一郎氏

テーマ：「感染症と災害」 ～新型コロナウイルス感染症～

講師：大久保一郎氏（筑波大学名誉教授・医学博士）

日時：2020年2月14日（金） 15：30～1

会場：神奈川大学横浜キャンパス 30号館B-101号室

主催：防災塾・だるま

参加者：総数 25名

- ・だるま会員：池田（002）、上原（006）、窪田（020）、中島（036）、山口（044）、田中喜（050）、山田美（055）、長沼（056）、片山（058）、田中晃（063）、玉井（089）、樋口（091）、佐々木（096）、稲垣（132）、田中栄（150）、鷺山（203）、土田（219）・・・・・・以上 17名
- ・一般参加者：8名（内佐藤ゼミ大学生6名）

「新型コロナウイルス感染症」は、過去に体験したことの無いウイルス感染症であり、今後どのように変遷するかを予測する経験値がない。

2019年12月より中華人民共和国湖北省武漢市を中心として発生が見られており、世界的に感染地域が拡大している。

日本においてはWHOと連携し、必要な対策を講ずることにより、感染の拡大防止と感染の早期終息を目指している。

### I. WHO 緊急事態宣言

- ・2009年4月 豚インフルエンザA（H1N1）の世界的流行
- ・2014年5月 野生株ポリオウイルスの国際的な拡大
- ・2014年5月 エボラ出血熱の西アフリカの感染拡大
- ・2016年2月 ジカ熱の国際的拡大
- ・2019年7月 コンゴ民主共和国におけるエボラ出血熱の発生
- ・2020年1月 **新型コロナウイルス感染症**

### II. ウイルスが引き起こす病気の比較

	新型肺炎	SARS	MERS	インフルエンザ
症状	高熱や肺炎	高熱や肺炎・下痢	高熱や肺炎・下痢	高熱・頭痛・関節痛
感染源	コウモリ？	コウモリ	ヒトコブラクダ	人の間で感染
感染者数	6,000人以上 (1月29日時点)	約8,000人 (2002～03年)	約2,500人 (2012年～)	年間約1,000万人 (国内)
1人からうつる人数	1.4～2.5人	2～4人	1人前後	約2人
潜伏期間	2～14日	2～10日	2～14日	1～3日
致死率	2～3%	約10%	約34%	0.1%以下
流行地	中国	中国・台湾・カナダ	アラビア半島	世界各地

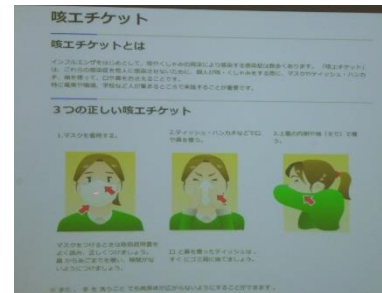
### Ⅲ. 新型コロナウイルス感染症

#### 1) どのようにして感染するか（厚労省 HP）

- 飛沫感染（主な感染場所）：学校や劇場、満員電車などの人が多く集まる場所
- 接触感染（主な感染場所）：電車やバスのつり革、ドアノブ、スイッチなど

#### 2) 予防するために注意すべきこと（厚労省 HP）

- 石鹸やアルコール消毒液などによる手洗い
- 咳エチケットを行う  
（特に電車や職場、学校など人が集まる場所）
- 持病のある方は公共交通機関や人混みの多い場所を避ける



#### 3) 指定感染症と新感染症（1 類感染症と同様の扱い）

- 指定感染症：既知の感染症の中で 1～3 類（1 類＝ペスト、エボラ出血熱など）に分類されない感染症で、1～3 類に準じた対応が必要な感染症
- 新感染症：人から人に伝染すると認められる疾病であって、既知の感染症と症状等が明らかに異なり、その伝染力や罹患した場合の重篤度から判断した危険性が極めて高い感染症

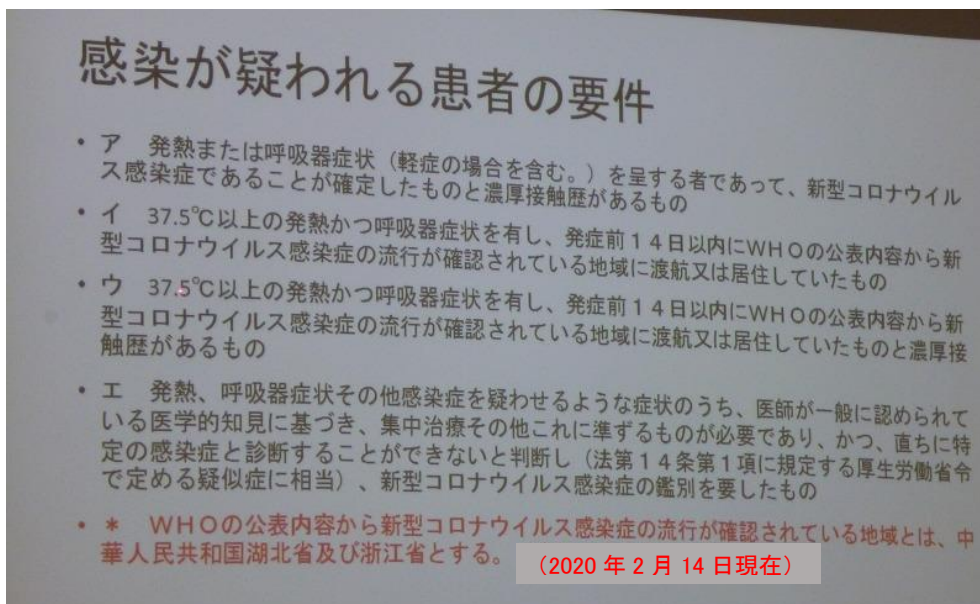
#### 4) 指定感染症の規定

- ① 患者に対する入院措置や公費による適切な医療の提供
- ② 医師による迅速な届出により患者の把握
- ③ 患者発生時の積極的疫学調査（接触者調査）
- ④ 検疫における質問、診察・検査、消毒等

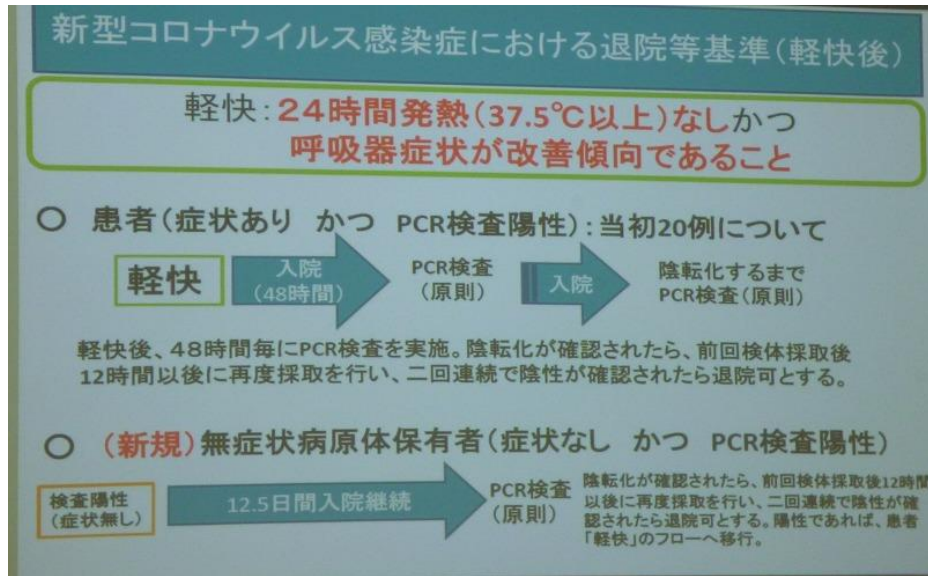
#### 5) 臨床的特徴（2020 年 2 月 14 日現在）

臨床的な特徴としては、潜伏期間は 2～10 日であり、その後発熱、咳、全身倦怠感等の感冒性症状が出現する。一部のものは、主に 5～14 日間で呼吸困難の症状を呈し、胸部 X 線写真、胸部 CT などで肺炎像が明らかとなる。高齢者及び基礎疾患を持つものにおいては、重症化するリスクが一定程度あると考えられる。

#### 6) 感染が疑われる患者の要件



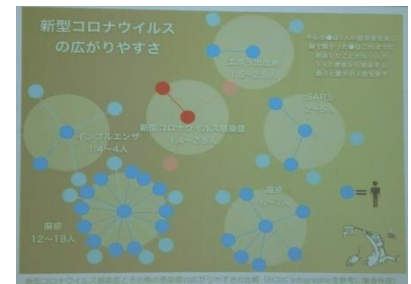
## 7) 国内の医療体制整備と退院等の基準（軽快後）



(2020年2月14日現在)

## IV. 講演の感想

- 新型コロナウイルス感染症については、現在段階では未知の事柄が多い中で、専門家として講演いただいたことに感謝。
- 通常のインフルエンザと比較し、感染者1人からうつる人数（実効再生産数＝広がり易さ）は同程度であるが、潜伏期間が長い（1～3日⇒2～14日?）、致死率が高い（0.1%以下⇒2～3%）などの特徴を知ることができた。
- 感染者の80%は軽症で終わるので、日本の医療体制から鑑み、健康を維持し「正しく恐れること」で対応できると感じられた。



## V. 参考

- 上記内容には、講演時の知見と最新の知見では異なる部分がありますので、ご注意ください。
- 2月27日政府の公布：新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐため、3月2日以降春休みまでの間、学校での臨時休校などを適切に実施するよう要請
- 3月11日：WHOによる「パンデミック宣言」

以上

2020年3月11日

記録 中島光明